

第3回「未来の暮らし方を育む泉の創造シンポジウム」in 豊岡 落語で学ぶ未来の暮らし方

心豊かなライフスタイル描く

「未来の暮らし方を育む泉の創造」プロジェクト(代表研究者＝古川柳蔵東北大学大学院准教授)と兵庫県豊岡市は10月20日、豊岡市出石地区にある出石水楽館で「第3回『未来の暮らし方を育む泉の創造シンポジウム』in 豊岡」落語で学ぶ未来の暮らし方を開催した。将来、厳しい環境制約下でも心豊かに暮らすため、どのようにライフスタイルを変えていけばよいか、親しみやすい「落語」からのアプローチも取り入れ、大人から子供まで、地域全体で考える大きなきっかけとなった。

■主催■
豊岡市
科学技術振興機構社会技術研究開発センター「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域2015年度採択プロジェクト「未来の暮らし方を育む泉の創造」

「未来の暮らし方を育む泉の創造」プロジェクトは科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST-TRISTE X)の研究開発領域「持続可能な多世代共創社会のデザイン」に採択された研究開発課題。ライフスタイルを変えることで環境負荷低減かつ心豊かな暮らし方の実現を目指す。モノづくり日本会議、ネイチャー・テクノロジー研究も産業界の立場から参加し、手法研究や社会実装をサポートしている。



豊岡市長 中貝宗治氏



東北大学大学院准教授 古川柳蔵氏

中貝市長は「未来の暮らし方を育む泉の創造」プロジェクトの推進に、新しいライフスタイルをバックキャストする。モノづくり日本会議、ネイチャー・テクノロジー研究も産業界の立場から参加し、手法研究や社会実装をサポートしている。モノづくり日本会議の柳蔵准教授は「環境制約が大きい中で、自然のものをうまく利用して、日常の中での豊かさを支えていくことが大切だ」と、遊びも自分たちで考えて工夫していたことなどを解説した。来場していた6歳の女の子に「手ぬぐいをそれらしくみせる技を手ほどきする一幕もあった」。

具体的には、現在90歳前後の高齢者へのヒアリングを行い、戦前の厳しい制約の中で心の豊かさを生み出す価値や地

永良部島、岩手県北上を基に、新しいライフスタイルをバックキャストする。モノづくり日本会議、ネイチャー・テクノロジー研究も産業界の立場から参加し、手法研究や社会実装をサポートしている。

者、豊岡市は政策として2013年5月から「豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト」に取り組んでいる。バックキャストで描き出したライフスタイルデザインの実装を目指し、市民への普及啓発を行っている。

また、古川准教授は「さまざまな制約があったにもかかわらず、昔の暮らしは心豊かだった」と「落語は庶民の日常生活がテーマ。古典落語をひもとけば、そこにヒントがあるだろう」と狙いを説明した。



中筋小学校の児童による発表



古典落語や地方都市にヒント



来場した女の子に扇子を著に見立てた演技を指導する林家染左さん

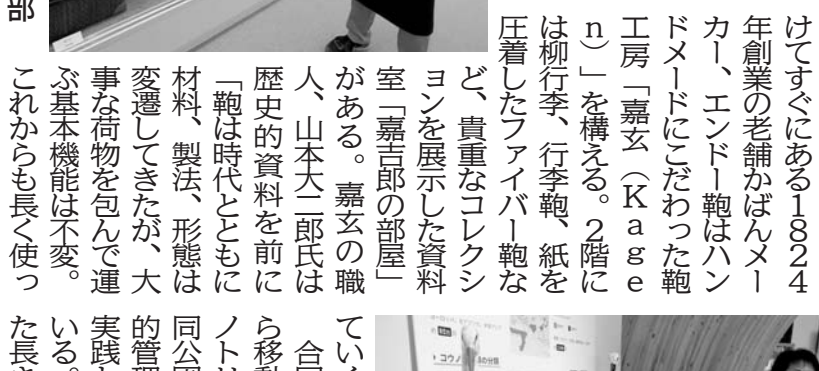
市民への効果的な働きかけ課題



合同ワーキンググループ会議

地元の価値気づくことが重要

「地元の人が地元の価値に気づいていない」ということも共通して挙げられていた。会議の最後に、ネイチャー・テクノロジー研究会のコーディネーターを務める石田秀輝東北大学名誉教授は「ライフスタイルを描くことも難しいが、描いたライフスタイルをどうすれば実装できるのか、手法論の議論も必要だ」とアドバイス述べた。



エントー靴業事業部職人の山本大一郎氏

豊岡市立コウノトリ文化館自然解説員の北垣和也氏

確認されるようになった。放鳥や野外で巣立った個体は現在93羽。北海道から沖縄県まで、44都道府県で飛来が確認されている。

合同WGは豊岡市街から移動し、兵庫県立コウノトリの郷公園を訪問。同公園は種の保存と遺伝的資源の管理、野生動物の科学実践という機能を担っている。野生復帰を目指す結果、野外での繁殖も

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

必要だ」とアドバイス述べた。

豊岡市立コウノトリ文化館自然解説員の北垣和也氏

この話は夕涼みに出かけた。屋形船で遊んでいる人の様子を眺めて楽しんでいる庶民の暮らしが題材。その話を踏まえ、落語で使える小道具は扇子と手ぬぐいだけという限られた中で、聞き手が想像力を働かせて情景を思い浮かべて楽しむことができることや、日常の中での豊かさを支えていくことを解説した。

確認されるようになった。放鳥や野外で巣立った個体は現在93羽。北海道から沖縄県まで、44都道府県で飛来が確認されている。

合同WGは豊岡市街から移動し、兵庫県立コウノトリの郷公園を訪問。同公園は種の保存と遺伝的資源の管理、野生動物の科学実践という機能を担っている。野生復帰を目指す結果、野外での繁殖も

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

モノづくり日本会議 未来への挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超」モノづくりの推進をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災イノベーション」など、横断的テーマについては、より実践的な成果を目指します。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ (www.cho-monodzukuri.jp) をご覧ください。

お問い合わせ先 ● モノづくり日本会議事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1(日刊工業新聞社内) Tel: 03-5644-7608 Fax: 03-5644-7209

モノづくり日本会議の事業

- 「グローバル競争力強化関連事業」
 - モノづくり力徹底強化検討会
 - 人材育成関連事業
 - 長寿企業イノベーション勉強会
 - 価値創造型サプライチェーン検討会
- 「新産業・ビジネス創出/ビジネスモデル構想力向上検討事業」
 - ネイチャー・テクノロジー研究会
 - 新産業創出検討会
 - 新産業技術促進検討会
 - 農工商連携勉強会
 - ロボット研究会
 - ロボットビジネス 2020
- その他の事業コンテンツ
 - 交流・マッチング事業
 - 顕彰事業 モノづくり部品大賞
 - モノづくり推進シンポジウム
 - 特別講演会
 - 防災イノベーション
 - 地区別研究会
 - 中部地区研究会